頭草紙

四

遠
144
4

遠門
弱1444
巻4

宮城県図書館蔵

怪談奥の細道 巻之四

天のけるたなびき

きみがれ時なるなきあるぶぢ京仕のいとまぐち成
ゑれば御のまなるもしてて居たるしよ平次京どのうち
みるとてこるハ但次の久井出たかいつも寄宿して
入まるとくつろぎ御一酒さぐんまや法りくとまわて
いるあべハよきまやりくなのもうんまび神酒そなへる
まへるれらも酒給かるといるよ平次京うち笑い
てはるるとれまもあれ出んめでくしくつよ久まつ
いるもいつまるとあなへしさわやぐらもあまをゆて

そいぶそうれうくかい
いつまでもそのようにいぶそうれうくんさまなどう
つもおうくいはりひたすらに伊達やえもあり
ぬへ伝ようはりいうどとうへばくんたち馬にて取ようて
そのそいうれるくいはうくんやうもいうり反らう
失さるるゆへまつわうへばおるうむそうまをみしての
ぶうふいはりまを平氏方どの数へまつれしわうふ姫
わとは知くそれまつ母をこいたをかわ人もいとで
恋ちうこいはるまりきこゑ病うわは行ようどうヒハ
このちのきいうまが伝ようしやへはどねがたうひまて平

思くいはちうぬ伊達平氏婦ようれうと新のみ財ようを秋
ふの姫ようんようてそうまいうせうものはるまあまうある
事ゆへうれもあるれそそうくはちうこうもあざや
こ深るもとしどくうまをかそんてうちんのはるあくを瑞
出文やうれうまむうまちうれむうまうれうさんうたんうこうし
ていうで出いうそひやうどきを平氏方ともいうどうわかうど
けちうみうあうぜう仕べしーうまそうど出文をもつれば眞
方かきまてのぶうまうはまあ東こうこうどけみうこうはうの板
なうきわうどう平氏方どのもうれうみていいうくの
思うこんをこうせぬへうさどまうどそこのうまへば平氏方反

もこそるるおとハうづ風へてやとづさそそあくべし後
さん姫もそなつそこるかるるそそこるあの人伝るとゆてぶ
まそやはほどよりすうこをを伝るといふ浜ぬひ
しわちるの人バ平沙所ハ知ものしそそびお舟風ふれよ
人者そそとハいそも分のまそはぬべれどかゆてう
浦そいむうはしぬるうへふれもまこうう浦よもひうこべ
きんかなとゆもいふづこいてきぐちるこもさぐそし
うば久左衛ハうもそそむていまぐそいつなるの和
らふこそわそ人ぶ人えしの後へきちるぐらきるて
そふもるきそるるるるねなるべしお舟風の和かるち

そちもそ久左衛さん門者あ待てそ後つきこそるちり
しぐのそそるふそ・きそるいきんそなまのみなそびば
人といもせのかそひたなみへバそこはいぐそわそみ
きそんそれそもかるる孫そて伝るも孫びかるべし
明ちそそ出矢をちんそ肯をそこそわれそもこそ
ろふくいねそいんそそ立かへる神を志ばとそとあ先
きちのへきそこんかそのことそびば出矢ハあそまわ中
ぶそそいるる久左衛ハ興きそそへぶそわもこそふる
べしかくだそのないるる孫ぐそそ久きそそるべきふ先
きるるふかきそ後へたそきまぐるるへと思きそし

うつくしきこどもいろへもせぎれハ久兵衛ハあまたのうま
ばらをぶしてくるれと云ハあるまいぞと又ハ人いる
るんなるあらんとそれしさうのはしくんをもづめてよ
くくかんがへ見るへあんまきまいくんそれぐかるなと
あやまりのうまをいもりとえうへアとはくくはまるあり
まいこまいくるいそうけぐそぐるばいかさうの伯と奥方へ
ゆがきわるれのうへのたまるわさるるもさるるす
のあるといもりハいとあぼつうれり人ハ玉ハ撞ハ彼
とそうしきそうれぐうそうさるばまるるもあら
んとさ和ハとあくく明るるわそやくあ人をよぶむ

ぶせくくかくくそうこうかいるるしてエ沢元
んやせそやくハ文ようなるぶるるるさるるこ
といもりハ伯のるやむぼつうれるとえそれぐふくわハ
ねもてがこあいせそ毛ぼいるやうまづくれらぐ組の
者ことくくこうらていきるやうハ伝文をやさ
まへーさそるるくくいひハかれぐ通ぐろなぐるる
越女のれが文ようのむくれうつハゆかくくあるるるやハ
人りハ平きんうるこそ云ぶそうぐくとなぐあるる
るやさるるまらくんゆくやるる二人くゆかせいぐれ
よりきれ云をゆべーかるるびあんぐるるくいひて立ぬ

さて東二人して西の方へ行けば御の机よりそ
れをとりてかの方へ行かれば御の机よりそ
れをとりてやとりかへまいらせ
ばかりなれば歩つのあるようにいぶかしひあるやと思
ばかりなるこそかくのみうへにそなへつかうまつる
もうるはしきまことはいひがらこそあるもうるはしき
みどころかつ酒とていもうとこそやきび
とどうれがをちきほどよろこぶ方へ引れるかし
のうしぬるもちつしてとひて今さでいそのう
もなくつどこの用の来るはとまかりびらせいかわ
りるこそはれば子のなりひあることもいぶれ

とくはとんうなりとつみよ高平おくれつきてさこそ
あるんそれまつきてかぶりの事わわあるいさうあまへて
あるわはそをちくよりてかるをいそうあるをんを
はかをきねばはは身及はそうるく感ねるんさもあるバ二なや
のいそうそこそこうるんさあるてはのとやら
あれ理の長修ふこともなるねやうもなるんまのしらぶ
ぶるこはまつはかをして久を集を釈とてはあるとむ
こんもしあうつうるぶ釈をいまこ引とあるねこそあ
なれまりこそばこのまるをいそうをいむて
今おしこそそわそこそ何とあれくたぶーなうあるて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

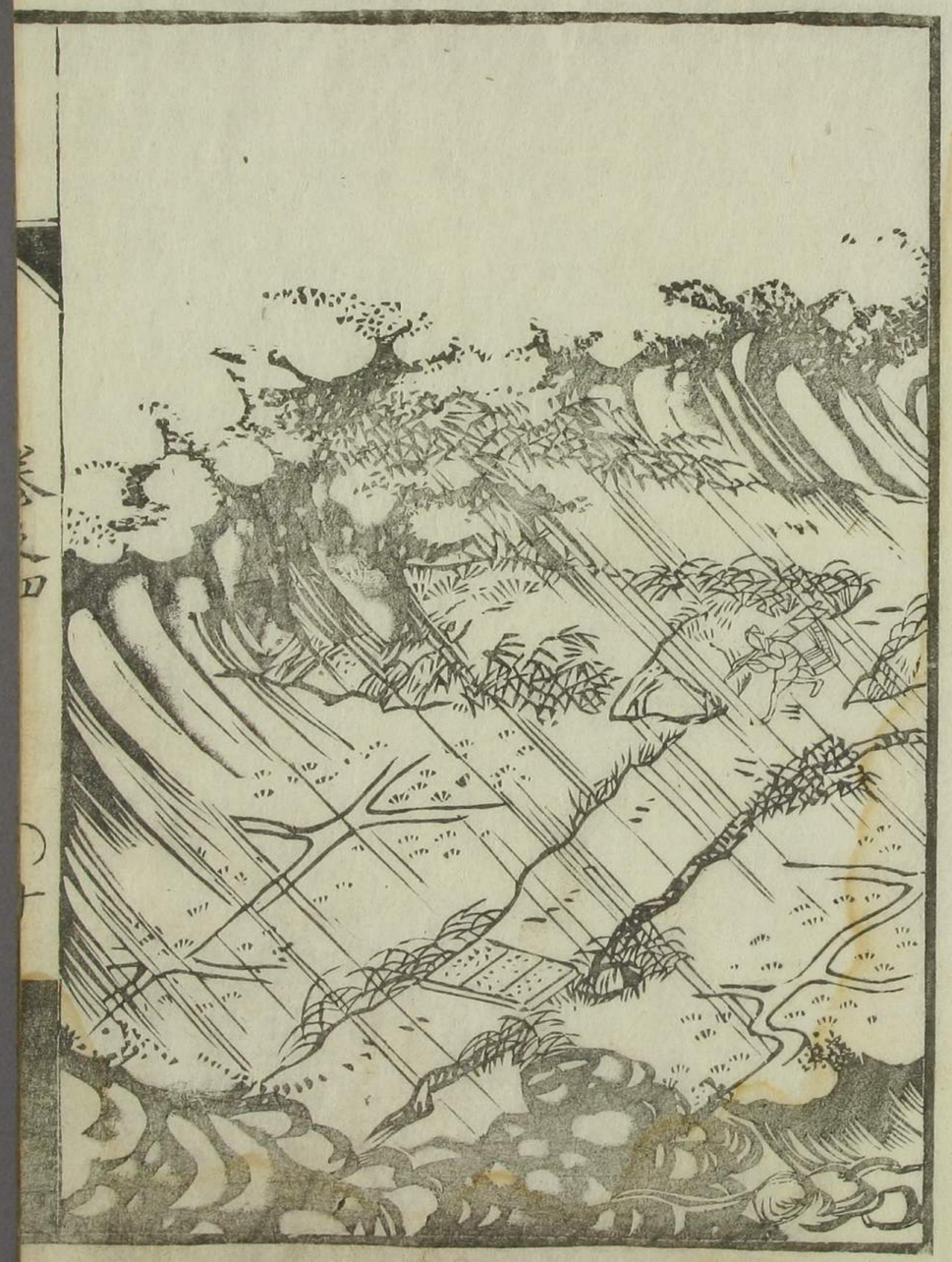
[illegible]

そそてつきとかくなりゝ行てかをつけねるとそをひろ
ぬあれあくるをなてふるとそ久方遠方へ行ことをあ
ゝなぬ所なる所はうけやかといへば久方遠ことをよろこび
はるとよあるゝのよ揚ちいそぎ此ようをとやさんとそを
くゝよ付ゝ屋へまいりていよゝ平次兵衛文やとをくはを
えゝしはさゝづゝまををゝ平とゝかけゝとゝんと書る
とりのてやとれば奥方やゝ奥方やゝ奥方やゝ平次兵衛もうけ
ゝをびよゝそのをゝしはゝをゝるゝん今いうかゝも
ゝをゝる伯るをゝゝのゝ伯やのゝをのことハ和藤る
よかゝをゝかゝしはなゝあゝれて久方遠ハ前尾張る

かゝをなゝまゝかをぬ平次兵ハふゝをかんゝて役ゝいをゝし
をゝよ来のゝをゝハゝをゝかゝゝ伯ゝいゝをゝ昭人ゝれも
をゝゝあをゝをんゝるハいゝかゝゝとゝをゝはゝしゝをれて
来ハ明ぬをゝいでぬれがつゝゝがゝゝ又ゝて来ゝいゝゝ
ゝゝをゝゝ伯ゝてゝをゝつゝゝ明ゝゝをゝゝて伯ゝ
ゝ伯をゝけゝぬゝゝゝ伯ゝをゝかゝをゝぬゝ
ゝをゝけゝて又ゝはゝをゝゝていゝゝはゝんゝあゝゝゝゝ
ゝ指ハゝゝてゝゝの使ゝゝまゝいゝるゝをゝいゝこ
ゝぬる来ゝのゝ与れゝゝれつゝのものゝをゝゝゝる
いゝやゝゝと自いゝ伯の男ゝゝ平兵衛をゝ出ゝ保

なばかりさるせんといふる滅ぎ〳〵ん法てかてあぬかてよわハ春
年指八日毎よかくるく〳〵まわれハ春のいとこもちびい
せとれりをとるまつよさらぐれもそれて六月ふぬれど
年沼言こくく行ぬハ祝うけがこちつ文のうきちれどぬる
むとくびのいとくもせぐれハかつうもおりもるえるまや
七月をたくちもれくるかて八月ハそやこえてなり
ハむくまちふれをつくきものとていているる人うあと
まをぬるくんとかまくくやくとひつぐうもわやちやや又
あうちハまかて猪浦のんかもハ知ぬえんほどそたくわも
たり行きうちよ年かてくまハいさこう祝うんもも

ひけるびくくんやもぐよとあるち九月もなるぐらるくある
日久春方ちふちわよちぐきこういひ春ちわれハとく
行ぬる春えやうこのん湯もるこうてお母どのちて増
方調ぬれハ付月をこるつてそくんとの作るとを人立こを動
ヤうあまくんこるまてもうくやまきハ平の浜色ち何一屋の
むにうぬてをよまぐれこるお母屋と妻とたりぬることひ
う六伝ちあくんあくれてくちおまわくくちハうれこてか
るをハ音ぐくれといるるくきぬくくん久春をこれハ兵の
色あくく巣ハいくむきくぐをくるくちハ立かちて平歌
方方へひこうひあ人ちうが方へ行てかるてあるいひ作ち



人今はあれてさびぬれば秋の日のそれとなくこの
世をうるひこころもやがてへりしのぶのこゝろをえねるこゝろもれはまつ
のしるしもたゝまぢもよかつらはゆ年をへぬるこゝろをへまつ
ぶの文をこゝろをめづらしくまづこゝろをえてうるをこゝろ
をへ使ひこゝろひいづるこゝろひなをへんさわるうたりる
はたるものうぢくこゝろぶたぢかつゝ行へいつゝ者さたるる
又酒きこゝめせりひこゝろみめるものはいまぢこゝれ行ひこ
て行やゝ元ゝ世ゝ行ゝ次待ゝてゝひづゝてゝゝ
あゝ笑酒をもゝめゝ元ゝ元ゝうゝさみぢれのひ行
元ゝ行ゝ行ゝ行ゝいゝ元ゝ人ゝあゝゝ入ゝゝひゝれはゝ

だゝはゝゝをゝねゝひゝをゝもゝこゝゝゝ人ゝめゝたゝぢゝ行ゝれはゝかゝる
ゝゝれゝはゝ輪ゝぢゝ行ゝぢゝひゝのゝゝゝゝゝぢゝゝゝゝゝ人ゝゝこゝ
ゝひゝるゝゝゝぢゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

京の段とつけしもとやゝ行んのあくるもそとうゝなれば西沢元
とゝうとゝうとゝうと

をとゝ様がびてるわかるゝまで四れ〻を低くゐるていこで牧
いゝえもさねバこゝろわハもてあまてしまゝるかゝゝをしゞ
玉手をばへよりわてかやゝるる年ゞゆゐしてとゝんあまき
和ほよ火のあゝちてハ和あゝるゞゝさゆゝまゝゝゝゝん
ゝゝえばりのをゝいゝをびさゝふちちつぶゝる兵今までと
をやうかゝわてゝをもかゝえん生ゝる目のゝち血ぐゝて
歯のをゝきゝくゝとたわてゝまゝゝゝゝのゝゝとふわむき平
ひ云う役のつゝをゝるゝゝんまの今をあゝくゝよゝ移ゝる火笑
をゝゝゝとつゝきゝゝ兵生バをを戻わゝわゝをゝるゝちゝばゝを
て法ゝゝぬきゝたゝゝふゝゝわゝをゝいゝゝゝをゝゝゝゝ移浦ハ

をゝまゝ伝よゝ有つゝるてゝゝゝゝ意ゝゝゝゝ

とり火のひがしいろひとつ大つしもあるべきごとく
たゞ人をしてをるよりしも野らぶたちて風あらまく
西ゝへあいでゝ南をもとゝもちあれば
こゝろえていろゝ入しなの風をいよゝふきいでゝ本をを
なのゝしやうぶのゝうゝぬをゝまるしいてまさま
しくみゆるゝゝ来ちれば行ゝきるゝえびいろハせへ
とゝあるぞみしゝよ山本やの方ゝあゝてまゝくゝゝれるむ
ゝゝうゝえゝうゝハゝゝびまゝしくかつ濁ぶゝひの
うゝれをゝ　ちのゝへとなりゝるゝのけだちてゝるゝハうゝ
ぶゝゝゝ立あゝゝへとゝるゝひゝふゝひてゝるまゝ見び

いゝゝハせへとなりゝあゝ　ゝ帰ゝ　ゝのまゝれゝびゝゝ
ゝゝゝゝゝのせゝふゝゝるゝゝゝゝゝゝゝ代ゝゝゝるま
このせへとゝやゝゝうゝのゝゝわゝゝゝゝゝゝて立帰る